

2024年 4月30日

国土交通大臣
齊藤 鉄夫 殿

航空労組連絡会
議長 赤坂潤一郎

客室乗務員連絡会
事務局長 古川麻子

要請書

私たち航空労組連絡会（航空連）は、民間航空で働くパイロット・客室乗務員・整備士・空港ハンドリング・営業職・日本に乗り入れている外国航空会社で働く労働者など航空で働くすべての職種を組織する労組の団体として、1986年に結成しました。

客室乗務員連絡会（客乗連）は、その職種別横断組織であり、日本で働くすべての客室乗務員が健康で長く働き続けられるよう、企業や組合の枠を超えて情報交換や政策づくりなどの活動を行っています。

2024年1月2日JAL516便と海上保安庁機の衝突事故が起きました。

現在事故調査中ではありますが、この事故で客室乗務員の保安任務の重要性が世間にも広く認識されました。このJAL516便は客室乗務員がすべての非常口に配置されました。すべての非常口に客室乗務員が配置されていたことにより、脱出可能なドアと開けてはならないドアを咄嗟に判断することができ、適切な経路の確保となり、JAL機の搭乗者全員の脱出につながりました。

しかしJAL・ANAを含め国内航空会社の一部の機材では非常口の数より少ない乗務員で毎日運航している実態があります。

国際民間航空機関（ICAO）では、過去の事故例から各非常口に客室乗務員を配置することを奨励しています。緊急時、即時の判断で一人が2つの非常口を開ける事は不可能な状況です。過去、乗務員がいないドアを乗客が咄嗟に開けたことで炎が入り乗客が死亡した事故もありました。

また、国際的に見れば世界の多くの国は客室乗務員に保安要員としてのライセンスを付与しています。日本でも航空の安全の向上、客室乗務員の地位確立のためのライセンス付与も含めて、以下の内容について実施して頂きますよう要請致します。

記

- ・航空機のすべての非常口に客室乗務員の配置を義務付けること
- ・保安要員として客室乗務員のライセンスを国が付与すること

以上